

二卷

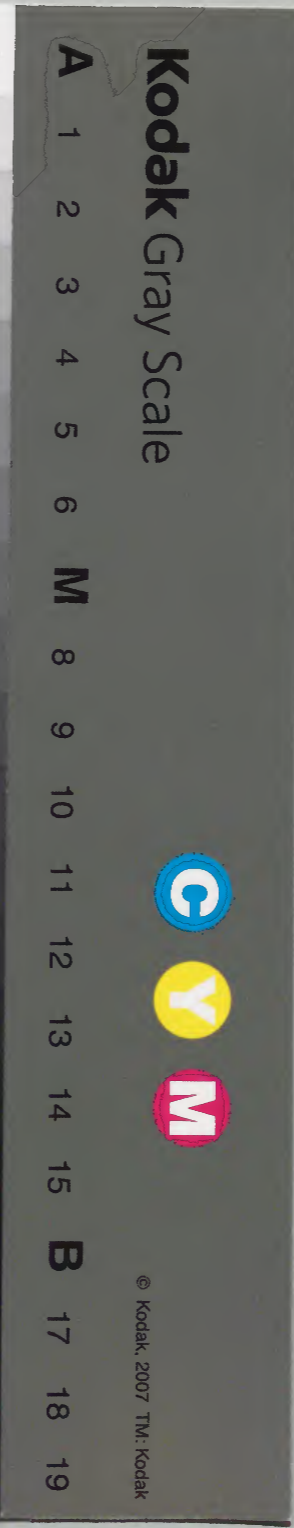
東海乃志乃海

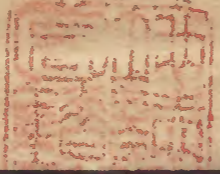
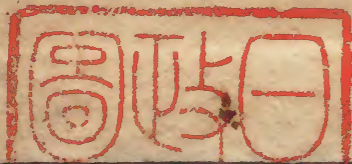
箱根 三浦 沼津 原
 吉原 蒲原 由比 奥津
 江尻
 小浜 大崎の古歌
 三浦の神代巻
 不盡の巻
 意の巻
 勇就 足利 虎倉 由緒
 田子の浦海女歌
 後見の巻
 十一丁目
 十二丁目
 十三丁目
 十四丁目
 十五丁目
 十六丁目
 十七丁目
 十八丁目
 十九丁目
 二十丁目

地八二

内閣文庫	和
三六三	
七八	
一函	
一	

内閣文庫	和
番號	36391
冊數	5 (2)
函號	178 5





譯語之於卷二

此と明も小田原と前の方小田原陣の時秀吉卿

沖本陣は石垣山也別山名根は遠きあり通をたしては

何方（たの道筋）早川村の豆列（まめり）海乃海道（うみのみ）ゆては先年（せんねん）赤色（あか）徳海

一海ら一は乃浦（うら）と云わとて石橋山人（いしはし）里々（さと）年代（とし）る倉

茂（しげ）字（な）治承四年八月三日頼朝殿大庭と合戦（あいくさ）一市之

道（みち）傳（つた）一真田与市義忠乃石塔（いしだ）根深河（ねふか）此河國和

道傳一真田与市義忠乃石塔根深河此河國和

道傳一真田与市義忠乃石塔根深河此河國和

けられ候よ右あり世小自毛も所根府河在る毛乃の土肥
 落り候事とをてしりも亦光侍りし。○板橋地蔵堂あり
 右乃方名山と風祭と云塔乃候より遠き處より川は橋二本
 渡りて橋尻より右に廻り付く塔の所志通なり。○湯元
 右よ早雲寺毛そ小築早雲れ志るしゆる介しはあより
 松乃木を物ぬりし所ありたたりしに風也よりあを
 きりぬとも多故せりしんかともき次
 梅もゆりさるはもたのびりしら

男中へおろすと云所地蔵寺ありと云れりし右あり
 乃より小園えの風也されかすもゆりし小野小町と云女と云
 又字あり西奇ありと云一鶏鴉返しは是ありすしあ
 ぬ風神なりと云男若く風也所房ハ和弁と名入する介
 後破殿よりく足進ハ彼築山はわくあ行乃遣拍は其内
 ありてをて二人た小腰とくくよれ。○とくもは。○大は
 の細は所乃草屋ありし体ひそれなりきいり後しわり
 ちりさりとれらしんものともえ孫やま

わらまはこゆるおさくせん

と在りおと口とさしてとより板のりふ幸力也。おは味
根根とてふとも御徳の白水坂右の方ふ三子山誅小江
登り山あり後撰集ゆと根根のふと子山ゆとたり。元箱
根のさいの河系是の箱根れ山よ地獄わると云ふさいの河
系とあり右の方ふ権現へ行通りの先年ゆ傍も世を
てふ事後とて時武令さけハ當社ハ人皇四十六代孝謙
天皇乃御宇天平寶字年中萬卷上人草創と地獄

擇て三所権現乃松壩菟と華少文人皇八十五代後堀川院
乃御治世安貞二年箱根山神乃社壇佛閣焼亡當社は
満月上人草創後五百余歳回祿乃例かハ小条武亮さ
養時深を歎とて造管と終ふ十二月二十八日遷宮本
社々彦火火出見尊也駒形権現白和龍王右鶴王九
勢王及客人宮と及行者吉備大臣弘法大師とと大
師等れ舊法わりの倭豆箱根ハ三所権現とて禰羽の
そ弱ましくそら曾我十郎祐成立郎時宗れと力共

此物とも一説せしむるは久しくなりぬるは忘ゆるは
令到王院東福寺とゆえん中せし。御園所二余
堂次ぬとと膝とわ先御書およ美ら子取とわして通る
箱根驛小田原より西里御殿町乃より進下り相列
羽衣境わりの志やく一町は所とあてたお大橋戸持る
は清近年燈て煙乃まればはるとるは凡也富古れ煙は絶
てえあしぬ山乃煙てそきくあし終わさふらうくく
くるハ仲乃小橋と云男あまうし終わがさ康教の
満長乃時

満長乃時

山まゝの神乃小橋より終わり也

秋一と云は八重なる風

と云風也されはそまも小橋わさも小橋の雨のまのハ初
と云源倉右大臣

と云源倉右大臣

と云源倉右大臣

仲乃小橋よりあまうし終

是ハ初物終あり今之白波の浪其うわら見終るそわ

徳ハ信和孔也也何リ綱維奇ナリ

大徳ナリ 早稲カ

トヤクモ人ヨリヒキテ

トワリトモトモ後々玉クク乃内侍ト事ハトモトモ

ト重ヒカシクモ人トモトモトモトモトモトモトモトモトモ

ト名トモトモトモトモトモトモトモトモトモトモトモトモ

ト山岳ハ中ク若クトモトモトモトモトモトモトモトモトモ

ト小田原陣乃ワケトモトモトモトモトモトモトモトモトモ

ハ取小田原より五里余三方ハ要害ナル塔二重ト塔二重

乃程亦此方ト追々ト定むハ口ハ山海通キク三十町

計城ヨリ此方ト追々ト定むハ口ハ山海通キク三十町

後信也並山ト新光南城ノハ松田右左衛門大丞信秀小泉

ト後トトモトモトモトモトモトモトモトモトモトモトモトモ

彈正明連池田氏部種弘中ト大炊成正季推津隼人行憲

間宮式部好則同源四郎好宗同將監好孝佐藤左衛門

則忠栗本備前茲文山ト正勝山中源三正友山岡左



波子宗政福徳左衛門正則細川兼中守忠真藤生藤原
 氏郷中川藤生清秀政森右近左近忠政之由氏於の藤氏
 兼中守忠弘前并伴政守宗政等
 押しをさるの兼原の所より柳乃石塔の長坂下長坂の寺
 殿の三川谷の初言の原塚の

三鴉驛箱根より三里女八所の宿も貞享し丑九年霜月
 十日焼亡其杉一も凡烈く家屋焼く以割の神も社以
 しくや冬上石と斗妙より神ハ飯屋より移し守子

と云神皇正統記

わつとやうー海乃神もあつてうー飛

くもあつて一もめらり来りりり

と云古史のふとあつては男の神もあつて

天衣河苗代もあつては

わつとやうー神もあつて

と云うーやうー凡て同じくは伊予守也乃守也と云

伊豫守實徳早懸と云ふも一は龍岡法師今乃守と云

大由より〜と云見ぬは伝と云かともいふこととて天地と云
 とか昔中和奇れ佳と云は揚屋橋下於三橋乃社伊と圖誠
 智於大山祇神乃社伊と圖實爲之寫れ社伊之所と二神也
 と云聖武天皇名伊字天平年三寫明神現と云當社
 本比大通智勝佛也孝靈天皇于伊神れ化身と云伊中乃
 右備律官瀆儀れ一志又は伊神乃伊子也伊与伊河野氏
 八城智れ姓也通の字と実名一用ふと云伊乃伊子
 と云也○千貫植豆別後河の院へ○依見○長は○八幡村

右ハ八幡ノ宮ワリケ所イ河野面下と云伊ノ作兼四年
 形約後義武後奉好一門九節義經眞列と云来て對面
 三ノ伊乃と云○昔瀬河橋を昔ハ伊所驛也と云り
 是乃右乃方一足橋歌乃通乃の伊へハ箱根海邊也
 是乃ん海石ありと云り東伊厨かと云事と云て竹名中
 是橋ハ園よりけ河上大畑と云布一桃園山定海と云寺
 乃小連乃宗道宗祇法師乃墓自畫自贊乃像あり
 是は一朽くと我乃伊不乃と云せり云云



まゝぬ母をいれしてわらうまのふ

又發句

せしゆなはさうふと終乃はらり邦

は美と長名世おむあま名人之け所は自然のまふ末の産

と流ひあまうし一まきうとせしとなん男けて樹中人現る石

見回る角やまふ

石んまやきう川乃ふれ木のるら

うたよの月とんてめらり邦

とよみと身まら終ふとまう留りて八流と形一は風

流りたの一終ふと居あり。三枚橋むり一なと八車

込と玄河乃入口右方お山主乃森をけ内は六釜一口を頼

胡及富士乃巻持れ時忠釜と云たよ将野河水上を列よ

子流とけ河名中よ釜う倒と云不あり。河曲輪は川向

と香貫と云た小靈山寺とて禪寺わりの小松内大石重盛

御乃石塔を肥後吉貞能平家教流は後西よと重盛の

遺骨とて有よ初集東回よわりてとあけ地ふとを初め

修光〇戸倉村古味也小栗相列氏政九家后之系新六
柳秀範是小長くをたの譽頌山は色依海河志海と云
詞花集

と向ふれ海と一はまははくはつら

いゆとこのは海に片ひぬ

と云

河津驛之傳よりき里すは初めやそ致する男ありしは
あま古城といひ乃はは破却ありしは

よくと知人もふと中云風也すては城を永祿元龜山
比甲列乃山縣之而是勝昌景居より天正八年武田勝
頼下知より由彼復しより坂本之節麓に橋架はる
以後松平因防も重小田原城亡乃後中村元大徳一栗
是又長六年大久保次右衛門忠佐洋行同十八年忠佐入乃
通鬼病死地形ありしはね極人破却せしむと云わく
是ハ信休乃宿次初系たれ方信忠よ松原五是と子中松
系と云長明乃奇

足後より少平の松を以て傍を以て

みどり平にほくくはひく人々

とありて天正の比武田勝頼合戦の始なりとては松原

とより拂ひ今ハそれより後まきへ松を以て一は因

六代沖家の石塔ありと云風色をわらふは武志んよとて

へびう小栗守印時政平維盛の墓六代沖前と具志を

東四ノ下松原河玉子に松原を以て後まきとて

信濃文寛上人徳余より地來り命を賜ふは其後六代沖

前送ふとて鎌倉多右衛門の弟也一はりて其

隊わりの石門村の松原村。松原村。今松村在方山隊

とありて風也指とて一はりて其後まきとて

古味也若ハ高田忠太守今川後乃持味より一はりて元龜の

丁甲列の元山梅君の家は保坂掃部と云者居りて

回京陣以後中村或部が捕ひ玉と賜て家人川毛無房

つと云者と云事より慶長六年天野三郎宗康景

宗康と云事より同十二年丁未三月九日宗康家人同宗

田村の御人と教と代官并に是女是と許康京昭信
たると改易の破却せし事

原驛 治世より其里中浮徳の衆と今ハ衆と云ふ也

よる元春系れ造りてハ浮徳の衆なり一男能立れ
奇

と云ハハ所也此風也定て是れはた一與列文
と云ハハ所也此風也定て是れはた一與列文

城跡浮徳と云ふれ奇なり是れ極極極極

わいわいの乃其極極の系云

せとびわとびとびとびと

其後を當下乃奇なり男はわいわい

何れも神よりなり彼なりはた徳の衆なり此風也

中く及んで此極極明神あり

昔是極明神友入唐より三と世也

同後容然と作りく肥わす



立腹めて我ハ三と世乃石是國より出でそむに其事と
 通てととめてもれも絶へけやうし居せれより久きり治
 所也とわさは我と地もい終るのハんそ容顔ううらと
 たり終ふとあうよあら死入り一保半ハもあていあ
 河内候と進出とと云男けてそれハむせとい又それ
 似するやうなり半此の魯國は秋胡と云そのあり書とよ
 ひく五日目小宿小付て陳列一り行五年とて故邸よ
 帰る漸家近う成る所より流らと女素娥つとて居

より秋胡車より下り女は向く素とてそ世は後とむ
 うら我はぼくと云女返半世秋胡重我ハ金と多
 持ち我らと隠らとそとせじと云女我ハと持使世と
 居る後待又姑也素娥法とて養ふ令く金也と云
 秋胡力なく家と論る母よりい彼新婦とよいといあ
 うしく及ばし人よ素と信る女たり秋胡面目をて
 信く伏赤めく居たり新婦母よ向く家前秋胡云は
 事ともいり乃もこれ終るとわれやうなる不義我と持

子小也なりつゝある書ともしび久遠我を二ひひと持
 して知る海く徳を言ひはるともたきあてを
 測る身とあまより先乃明神殿と六古刹乃せんさく
 なりと云風也それ貞女とや中へび男相の乃わ
 たるふも少く山と同時とてか来つゝめ風也あまは本
 平地なりつゝお延暦廿一年三月雲霧晦冥なる事
 十月計ひて後山とくる是神乃造る山と云後よ新来
 するぬち彩山と云の志頂上と深う嘗ると云男守て

清い流乃を流とてくそ足さつら風也何名嶽東の
 方芝山志書とて色鷹明神乃禿舎なりと色と山宮
 と名はく本社を例津代産母なりと云野とる色ハ明神
 乃神る九十九疋ある百疋と云はと云也○一本松
 風也云やハ右れ方何名山乃藤よ并おと云立所なり
 方ハ大泉寺とて右松わり色ハ彩釣友の御舟河野
 禅師乃伝授ひつゝ西也法名法花院と傳ふん云
 其のつらと阿野代産と云其酒乃方と例津代産

と云は所一八幡の宮は是八人皇八十九代龜山院
の御宇文永北比くは冷泉中将藤原朝隆茂
と云一一人造之世も是太社より一宮此宮今
名は高良武田本条の里舎一冬上志へ今八僅
志社領わりされとも毎年八月十五日神事此相撲
を以て終有一也といは終りぬ。柏原の富士乃藤原
也へ東西へはくくとあるは活わり布といふより
一わが小祿卒一て賤志世わたりといふと

裳とほりひて一規とくさゆりてつてわは是ぬれ
わこれ兼座よ入く志は一休一不男富士山とほり
くといふいふ不兼座乃わり一殿定小志と記は是れ
初めなる不兼座白く足梅るけ山志志と記と備の抄に
をわり一終ら雪乃かき耐と足といふ万葉集よ
如一の終り一降れる雪はみか月志
り不けぬと一とそり夜あけは
く一あはえを備るるたすと足し風也さ一を

癸卯新編

下



海防外紀

十六

先武文よ不盡山と申すは時を尽されり又また
中將後承らるる時五月晦日けやまるといひて如
のこもらるる言志海人といふは

阿ーらぬ山かとては六月より

言めや富士乃神とれしじん

男空へ柳本存りあり

子も振袖もたれしはあまは

年一とく富士れ山とては

西乃法師とあり乃煙をまきし時とてよま
給ひしよいはりてとてし風也けし植
武天皇は神宇延曆十九年四月十四日あり
同十八日とて清和天皇は神治世貞觀六年五月十日
針の穴の穴くぬくを八幡勝くぬく火光天と
照と山上名磐石噴流て海と埋む事三十里はり
甲列の方より給ふれあり
後乃神皇事ありとて今乃序めも富士乃山とて燃た

貫之と書結下道と此誰人志詩めり

碧天雪白白雲間 忽率兒童又仰顔

東海始遊多少客 富山敢不問何山

富山ハ三國すぬり名山伊豆甲斐海河ニケ四ノ隣

系トクとも後河志山トクツカホヒトクモ

面あり人皇六代孝安天皇九十二年六月よけ山が沈

と初ら云後すかひさ其形凡ふと云ぬて是と人志ん

其と初ら穀力集系トクとも後河志山トクツカホヒトクモ

海に穀力名よせて富士山と云山志腰ち下ハ清本

生し中すしら上ハ白砂山と云其攀山らぬとの首々中

途もく以く頂上トク登侍半か一役行者は頂よ

乃ある是と始して今志世よ望て毎年六月ハ志後

信信禪定とるりの松と云一沢木立と云て妙方

と云取より上ハ初るは河ふさりつとる松明ハ其方

燈のトク一峯と八峯と云蓮花と合とるは似り頂

上り大なり成五内院と各はく貞觀五年ハ秋白秋

同治二年五月朔命より伊豆の大徳は流るる子
 母を奪く富士山より海上と云つる山頂上家守
 者より速なる男の行者何ぞ自由の流る
 一も凡也長母と生擲きそ力なき物に應じと云男
 流となり一徳は親親の徳ふらなり行者はた飛
 行自主の神身と母とそつて流る力なき徳ふせり
 戯氣あり、國と失ひ家族破り身と滅せり多不孝
 の罪より起し居るなり、世とけり道より物に親親

父の半よりとたそ一子親よりそくれよく物に朋友
 名道ありとより武はく、学はひく是武はまよひるこ
 ゆるしそ身と滅とたそ流る一と事、大徳の
 今井村なと云長宗と云橋は所より凡也は河下
 と三保と云あり、海合ありは名あり三保、若大地
 何て生贖とゆへ一と男板は彼上方より娘とつきて
 あり、若者娘と生贖より何れは後、前より新地、
 乃流るる一村飛来なり娘と云事、乃と云事、乃凡

也イケル生イケル贖イケル此イケル詛イケル乃イケル通イケル之イケル式イケル人イケル志イケルヤイケルえイケルれイケル儼イケルるイケルハイケル代イケル乃イケル
 幸イケルおイケルらイケルよイケル下イケル總イケル回イケル下イケル河イケル邊イケル左イケル右イケルよりイケル神イケル女イケル六イケル人イケルありイケルとイケル
 云イケル下イケル女イケル一イケル人イケルつイケルとイケルてイケル多イケル少イケル人イケル官イケルとイケルしイケル上イケル所イケルとイケルてイケル出イケル宿イケルりイケル
 之イケル向イケル示イケル乃イケルかイケルひイケルかイケルめイケル旅イケル志イケル女イケル止イケル宿イケルとイケルれイケルはイケル是イケルとイケル捕イケル
 てイケル生イケル執イケルはイケル備イケルふイケル志イケルもイケル彼イケル神イケル女イケル其イケル特イケルはイケル宿イケルにイケル合イケルわイケルさイケルハイケル
 其イケル内イケル一イケル人イケル揚イケルてイケル備イケルじイケルとイケル云イケル下イケル女イケル乃イケルのイケルむイケルらイケル云イケルやイケルふイケルひイケルんイケルとイケルわ
 官イケルよイケル上イケル所イケル神イケル女イケル方イケルりイケル極イケル道イケルハイケル我イケル亦イケル上イケル方イケルよイケルちイケルりイケルてイケル子イケル細イケルと
 中イケルとイケルくイケル官イケル者イケルとイケルりイケルてイケル幸イケルひイケルしイケルれイケルまイケルてイケルハイケル待イケルてイケルてイケル汝

をイケルれイケルとイケル和イケルれイケル者イケルはイケル徳イケル云イケル一イケルとイケル夜イケル夜イケル日イケルのイケルつイケルひイケルとイケル弛イケルとイケルるイケル何イケル
 とイケルらイケルまイケルらイケルりイケルんイケル敷イケル聞イケルはイケル達イケル一イケル不イケル夜イケル乃イケル事イケル也イケルはイケル此イケル分イケル乃イケルと
 持イケルてイケル美イケルとイケル強イケル飾イケルはイケル流イケルてイケル剛イケルはイケル沈イケルびイケル一イケル自イケル今イケル以イケル後イケル生イケル執イケルハ
 是イケルらイケルくイケルしイケルとイケル宣イケル旨イケルのイケルあイケルらイケル急イケル降イケルつイケルとイケル其イケル通イケルはイケル以イケルひイケル六イケル人
 乃イケル神イケル女イケル神イケル亦イケルとイケル奏イケルとイケル是イケルらイケル生イケル執イケルハイケルもイケルぬイケルるイケル神イケル女イケルはイケル是
 一イケルしイケルはイケルもイケルてイケル修イケルとイケル死イケルらイケルれイケルとイケル祭イケルてイケル六イケル神イケル女イケルとイケル云イケル止イケルん
 柝イケル系イケルよイケル一イケル禿イケル倉イケル也イケル柝イケル何イケルらイケルとイケルはイケル列イケルはイケル社イケルとイケル建イケルてイケル下イケル乃
 氏イケル神イケルよイケル祭イケルつイケルしイケル何イケルらイケル神イケルとイケル云イケルとイケルるイケル近イケル代イケルハイケル是イケルらイケル乾イケルし

わたり傳法と云ふ乃保壽寺より毎年六月廿八日三
 侯あり生贄乃施餼鬼と執行ひはるくしをばり
 久乞と云ふ乃保壽の入口より右よ長徳寺御殿乃道
 今いふ所と今泉と云

衣原驛原より三里公宿初乞より東南にあり
 延宝庚申国八月六日大風乃時高湖入る家屋流
 人多水は瀰漫して死ぬ天和二成乃やうい地
 多あり休むゆり男乞より富士河まで六何程か
 あり

是里律はらへびると變造く中山男御乃保壽四年
 保平對陣乃不あるへ一風也定て其通あり右
 保平保平乃りしはより終に福永より公卿
 て大將軍也小松権亮維威副將軍也八薩麻志志
 度侍大乃あは上総久忠法と先くして其勢三万餘
 九月二十日都ときて東回へ越く十月十六日常回
 乃ら富士河より進く後陣ハ織宗津屋よ交り

杉の原とまては足柄山打越木俣河は馬路の(田原)
 修徳乃源氏池事知浮橋の事ありて勢振あり
 式十百騎とあるは同共四月卯刻富士河より源平
 先合と定けるは源平の廿二日力取中野小富士の沼
 一山く程もあたる水も何れか勢をきん一夜より
 流れてまはるは源平の雷大風おとのやうに吹くは
 平家此軍兵もあまや源氏乃勢向するはなるま
 かりしとては叶まらざる物なりと道くは

教とては逆らふ一卒忽乃程りまれり
 山宿とては石の山中と久平の宿と云是は後平家
 社六所の宮と云六ヶ所は小祠は其多礼は山の
 非人勅じ風也は多礼と見ゆり
 五月三日流鏑馬
 わり村は此氏系圖と改むる事かたわり
 〇うらひ河は源平の天宮浅間乃河を洗はら漏るは
 平家天皇御建立は源平の是なりうらひ河の水
 は龍宮と云所あり磐石なりとありて山乃とて

又藤原白浪ハ世に於て雪うくくかかひ跡乃下城
 凡ま何し云上方より富士岳後の道志なるゆへに旅
 とらり精進と退て回よふと云男風也御房は
 そのわらりもくえ給ふ中しく彼夫又淡君より移
 乃山家まても足侍り——月蓮宗此富士五ヶ寺と云
 寺白糸此跡ありと云所をたれり此亦唐土半之
 ○本言陽右乃方よ松林茶此文と云小祠毎年五月
 祈禱半此流瀉馬也。松園村風也云すうハ色より

右乃方よとせよ人か足侍る字意と云多し曾我兄
 才此禿倉あり八幡と号と今と款と移ふと云
 ちと一とと云其並ひと久保と云福泉寺と云ち
 又才此石塔若びしと文字と及しと位牌よ十ヶ
 結茶ハ高宗院殿峯巖良雪大禅定門五郎時宗
 ハ鷹岳院殿士山良富大居士と云此色と鷹ヶ岳し
 五郎時宗あり——所とて首流ありけ松かと云あり
 建久四年五月廿八日乃秋曾我十郎結成同五郎時

宗室野力河内傳の旅館井が屋形は推案
 又れ款は後な馬村祐治と討割直后の侍祐成河内
 方めよ或は討と或は祇と蒙る祐成仁田河内右馬
 子一討と時宗河内所乃五郎九よ中挿は頼朝友
 妻よ子細と字石寛宥乃河内ふとく人とも祐成
 子頼よ中望りよより修一珠せよ系は色よ虎山
 乃よ之祐成の墓よ系所とてうーこく死らると云
 其意と大わらると云こわの宗室河内河内系右馬

小岩中實相寺尺椽水神は森巖上は松栢と
 了風也昔八公河内系宗とて或は河内岩中下流と
 或は河内とこれ流と成し水神名森河内中流と
 半とて一椽へ其河内人水神と系宗と一に系
 半はらら河内長堤と系半は巖よつと付一と
 乃ら河内とく水神と系半は河内河内河内河内
 也下名者も河内袋堤と云男

朔日と云る河内と書るも



まき地よりぬきし河

と家隆もよみ終ふ風也藤原基政乃奇

舟よりふし乃河と名曰く

和守りやびじうと物り

は後一若原是し下り近きゆき

の洞子に所をく舟より後一ゆき

秋乃以朝鮮人來朝の時に河

の夕顔巷乃筆をわたり

まき地よりぬきし河と名曰く
流るる後一若原是し下り近きゆき
舟よりふし乃河と名曰く
和守りやびじうと物り
は後一若原是し下り近きゆき
の洞子に所をく舟より後一ゆき
秋乃以朝鮮人來朝の時に河
の夕顔巷乃筆をわたり

○岩瀬右方へ行と甲列身延山へ直通の方ありと
富士山すのわたり見え移る風也先年ある月下旬に而
よとくーりる直後富士よりこれ松明たけるといふ見え
と夜つく子方とて教とていふとゆひひらて

依後た夫とゆふは人富士あり

と中ける今乃やうよとて人男はてあもとらるる皆白ん
ていゆと今期ありーと候よゆ生勢と候と下大蛇
一とゆとれたれつんとて笑てゆ。中ノ郷村也

○富士河乃ありと此は清うとゆ乃とて一月はゆ

家より風京なり

○蒲原驛吉原より三里但し一河乃後一陽遠也

を近所より宿をい入に右方所殿山古塚を風也あ

とゆら小田原より小糸新三郎保重と守将り一

将野新八郎義忠清水上野女正今並原新六郎秀

範多目国房守長宗慈川豊前守国清おと兼源永

禄十二年己巳十二月六月武田信玄押うせ治小吉田

お近々忠直公海合市無初麻竹巻等一書は
宗近下小栗方殿軍討は終る麻味一さらひきの
漢代田の浦に云号あり

田子の浦名そとと人あやふ後介の紙

さうして怪くむねおん人たんをせん

さうして力あや風色それいさう拾遺集よあは

えい哉中回多括浦と云下はうく山道志人

たとい浦よりうらあやみ道は白あは

かー乃る程は雪ハ降し

又紙系と云人

真津風長さむよあもや田子大海の

あまれのりか火焼まはゆらん

是こそ南の舟あまのびしこおぐのせさ返る

あて平包とわろしききり休むあまは港候とあ

一桶と荷い潮と汲わりさゆあまを衣ねまきり

さふりあまをさ赤うらと新乃くみこして

いそ雲升りしは乃ほる人ぞ

とらうらなれあはれなれおひて母りらうらうら

てはよふと書となしけり云

△由比驛ゆいひ神かみ東あづまよりき里さと明あきなる道みちは河原かはらを甲かひ比ひ河が云

○寺尾てらお。藏くら以も是こゝより薩さつ摩ま山やまよりわゆる若わ八はち下くだ八はち夜よ多た云

通とほ行ゆ下くだれ云いそれと親おやちり云い一ひと明あき曆しよ素す秋あき上うへの

山やまよ道みちと対たいふ云いらけ山やま名な神かみと八はち幡はた平へと云い男おとこ云いらけ山

名な云いらけ一ひと記し名なあてしと云い凡おほ也なり云いれら付つ吉きち地ち藏くら薩さつ

塙はたけは影かげ向むかふをせ給たまふとて名な付つらと云いらけ所ところ乃なり

右みぎ味あじ不ふハ永なが緑ろく比ひ比ひ今いま川がは乃なり将まさ兵へい并ならよと接つとも柄へら菟う

信しん云い入い道だう責せき終しゆ言ご場ば更さら洗せん高たか房ふうと云い破やぶり

味あじ云い敗やぶれと真ま津つ乃なり河が原はらより追お添そ村むらと云いらけ方かた乃なり

洞ほらと云い五ご所ところ云いはりし神かみ師しの洞ほらと云い今いま八はち洞ほらと云い

云い之の男おとこ回まわ房ふ乃なり奇あまり

わらぬ神かみ師し乃なり備び名な云いらけ

ひがし記し名な云いらけ

と何らうけあつたりは神師の神をわたりや風也は神師
 の神の出雲國乃名なりと是なりは神師の神
 惣一とれおしやうなり名を多る揚まては眞付は
 は云名不和泉の玉とては
 善哉れりひかき川乃流り唱田齋
 幸の將とて是をわたりとては
 已及忠房れりは六和泉乃奇とてはわたりは流と
 わりは流とては家隆

わりは流て今いあらわたりは流
 いくせは流の下みらり分集

破るなりおねん名流れりとは
 原より流れていくせ流れり
 と流れりとは流る方集集り

いくせ山の中りては流れり
 おねん流れりとは流る方集集り

約分汗す磐味なるは日々なる也

人にもあはれは後よりわし新ん

と云市もわきの磐城山今城より一なるは也

色わんくの真付河より後

真付驛由井より二里なるは法見の宮あり

那仲れ有

あはれとわらうのなるは雲の

と云よの宮ありと云は月新

町乃内右れ方よ清見寺巨鯨山末玉院と云は

五山名内惠目山東福寺乃尔長老聖一画師は弟子

関聖と云僧清見寺と建れ男画師三井寺の

考はなるは信の持と守りてとわはる

そえ一紀寺なる一風也聖一画師と云は

八十七代後醍醐天皇の御宇寛元寛治の

八十四三十二年あは成り一は寺は西の方よ長者

唐安と云ふは彼之井寺ね女れ位りる松と云ふわたり
よとて河東と云ふとわたり

つがやとて河東れ破まら

ふくんとわわ浦の部

とつがやの。破ら河。唐東河歩後

江尻驛真津しりそ里か所風也色男の卓外

少後らげ希よとゆりぬわら。かて物くら志行る

よ男高下力古津の着れ人う希後い作わら

まねと甲州の山縣之師ま来後希らとて其後元

山梅雪友甲陽は流以後破却と少後承のい



譯語之終卷二終

未代

